



『東北圏だより』



「新たな公」に環境先進都市づくり

～ 計画理念の実践 木造耐火建築技術によるアプローチ ～

美しい山形・最上川フォーラム
会長 柴田 洋雄

（東北圏広域地方計画懇談会・副座長）

最上川本流唯一のダムである上郷ダムでは、引き上げられるゴミの3割が流木などの自然ゴミである。県民5千人が参加する「美しい山形・最上川フォーラム」では、継続実施してきた水質検査、ゴミ拾い活動をステップアップさせ、「ゴミ発生源対策 “捨てない・すてさせない in 最上川”」運動を開始した。倒木や間伐木が放置されると、これらのゴミが増える。発生源対策の一つとして森を整備することにより、最上川がきれいになり海沿岸のゴミも減少すると考えられる。



CO₂ 吸収源の役割を担う森林整備の決め手は、伐採・間伐木を、市街地等に建設する大規模建物に、いかに大量に、採算の合うように使用するかにかかっている。当フォーラムでは、官・民・学のフォーラム会員によって協議会を設立し、まち興しと森林整備を結びつける「耐火建築技術」を活用した、先駆的な「都市と森林づくりの両立モデル」の構築を目指している。

取組の内容は、官・民・学一体となる「新たな公」の協議会が、川下の市街地需要が川上の森林供給を引っ張るデマンドプル型モデルを構築することにある。「山形発の環境産業」と位置付けて育成し、認知度を高めつつ、市街地に林立する鉄骨・コンクリート造の巨大マーケットに新規参入する。大規模木造耐火店や中層階木造ビルが建ち並ぶ“木造都市”を創出し、成熟社会に対応した「環境先進都市づくり」を推進する。

また、木の温もり溢れる街並みを、住民や観光客がネットワーク的に回遊して、市街地や周辺地域の活性化を図る。日本人が昔から馴染んできた地域材を市街地で大量使用し、供給源である森林を整備し山村を再生する。伐採後に植林して地球温暖化防止に努め、資源循環型社会の形成や、最上川への流木削減、水質向上を図るなど、総合的な取組方策として都市と自然が調和する美しい山形づくりを目指す。

協議会構成機関からの情報－岩手県－

岩手県では、昨年12月に多くの県民の皆さんの参画により、「いわて県民計画 ゆたかさ・つながり・ひと ～いっしょに育む『希望郷いわて』～」を策定しました。

岩手には、平和都市「平泉」に代表される、人々の平和や希望の実現を願う「岩手のこころ」、「結い」の精神、実直で粘り強い県民性など、岩手の豊かな自然・風土に培われた地域色豊かな独自の価値が溢れています。

いわて県民計画は、こうした岩手らしい「ゆたかさ」や「ひと」を守り、はぐくむとともに、人と人、人と自然、人と地域との「つながり」をはぐくみながら、県民みんなの力を結集し、「希望郷いわて」を実現していこうというものです。

平成22年度は、県民の皆さん一人ひとりが未来に向け、希望を持って歩みだすことができるよう雇用環境、県民所得、地域医療、人口転出の4つの喫緊の課題解決と、岩手の未来を拓く「ゆたかさ」「つながり」「ひと」の基盤形成に向けた取組を推進していくこととしています。



▲希望郷いわてフォーラム

また、本年度から、地域の特性を最大限発揮できる枠組みとしての4広域振興圏において、地域の方々が安心して暮らせる、確かな地域経済の基盤を確立していくため、1広域振興圏1広域振興局体制をス

タートさせました。今後は、広域振興局の総合力・機動力を發揮した地域経営を一層強化し、市町村と連携しながら、圏域ごとに描いたそれぞれの目指す将来像の実現に向けて取り組んでいくこととしています。

グローバル化や人口減少・少子高齢化が進む中、また、地域主権改革が本格化する中で、県の区域を越えて、共通の目標のもとに戦略的に広域連携を推進していくことが重要であり、「豊かな自然の中で交流・産業拠点として発展するふるさと『東北にっぽん』」の実現に向けて、東北圏広域地方計画の推進に共に取組んでいきたいと考えています。

協議会構成機関からの情報—(社)東北経済連合会—

(社)東北経済連合会は、東北地方整備局、東北運輸局とともに東北国際物流戦略チームの事務局を構成し、県境を越えた広域連携により、東北地域に広範に立地する輸出入産業に、域内港湾を主とした物流経路・手法の選択肢を提供し、効率的な国際物流の実現を図るとともに、国際物流における東北の競争力向上により、地域産業の育成や新たな産業の誘致など、地域の活性化を目的に取り組んでいます。また、東北における国際物流の情報提供などを目的に講演会や情報交換会を行っています。

当会では、こうした活動の一環として3月17日（水）に仙台市内において「東北国際物流戦略シンポジウム～東北で実現を！45 f t 国際海上コンテナ（以下45 f t コンテナという）国内輸送～」を開催しました。当日は、港湾関係者や運輸関係者、行政機関等から約180名が参加し、第一部で東京海洋大学海洋工学部教授渡邊豊氏による基調講演、第二部で政策研究大学院大学客員教授稲村肇氏をコーディネーターにパネルディスカッションを行いました。

45 f t コンテナは40 f t コンテナに比べ約1.3倍の容積があるため、物流コスト削減やCO2排出量削減などの効果が期待でき、荷主企業のニーズも高くあります。45 f t コンテナは、2005年10月にISO（国際標準化機構）にて規格化され、既に欧米をはじめ中国・東南アジアなどでも導入されていますが、国内で公道を走行できるのは40 f t コンテナに制限されています。

渡邊氏は基調講演の中で「45 f t コンテナはアメリカ等で20年以上前から取り扱われている」と指摘。また、国内でのトレーラ横転事故の事例等を交え「コンテナの中身は千差万別。横転を防止するにはいかに適切な情報を伝えるかが鍵」と説明した上で、横転防止システムについて紹介されました。



東京海洋大学 渡邊教授

パネルディスカッションでは、国内で製造されていない45 f t コンテナ輸送シャーシの調達費用と物流コストとの採算性、交差点等の道路面積、空コンテナ輸送に優位な航路誘致の必要性などの課題を討論するとともに、「荷主企業・港湾会社・船社・行政が一体となって取り組んでいるのは全国で東北だけ。荷主企業からのニーズが強いこと、工場から市街地を経由せずに港まで輸送可能という立地条件も有利」と東北地域の優位性や期待も指摘されました。

最後に「地域一丸となって課題を解決し、国内輸送実現に向けて取り組む」ことを確認し、閉会しました。

■基調講演 【演題】45 f t 国際海上コンテナ国内通行問題と横転事故防止対策

【講師】東京海洋大学海洋工学部 教授 渡邊 豊 氏

■パネルディスカッション

【テーマ】45 f t 国際海上コンテナの国内輸送実現に向けて

【コーディネーター】政策研究大学院大学 客員教授 稲村 肇 氏

【パネリスト】 東洋ゴム工業(株)タイヤ事業本部SCM統括部部长 河野 博 氏

塩竈港運送(株)代表取締役社長 岸野 康一 氏

近海郵船物流(株)取締役仙台営業所所長 山本 幹 氏

東京海洋大学海洋工学部 教授 渡邊 豊 氏

(社)東北経済連合会地域政策部長 小野 晋

取組推進PT（プロジェクトチーム）の動き

第2・3回『「新たな公」コンソーシアム・シンクタンクの創設』取組推進PT会議

3月18日・4月26日に、第2回・第3回「新たな公」コンソーシアム・シンクタンクの創設取組推進PT会議が開催されました。

3月の第2回PT会議で、昨年度実施した自治体と地域づくり活動団体を対象にしたアンケート調査結果について報告したところ、構成機関の中で課題の共有化が十分に図れなかったことから、第3回PT会議において、自治体と活動団体が抱える課題について、再整理した上で報告し、意見交換を行いました。

出席者からは「地域再生を担うのは、どこの地域でも対応できる地域コミュニティや地縁組織であり、着目すべきである。」「なぜ既存の制度が活用されていないか、理由を整理した方が良い」といった意見をはじめ、終始活発な議論がなされました。最後に事務局から今年度の進め方と検討スケジュールについてと、東北こんそより今年度の取り組み内容の説明を行って閉会しました。

今後は、作業部会（WG）の設置も検討しながら進めていくこととします。なお、次回PT会議は9月を目途に開催する予定です。



▲第3回PT会議の様子

広域地方計画に関するお知らせ

6月2日（水）13：30～福島ビューホテルで東北圏広域地方計画協議会と阿武隈川サミット実行委員会と合同で「水環境を考えるシンポジウム」を開催しますのでお知らせいたします。

「生きものの個性とつながりを意識した水環境の保全」と題して、福島大学の塘准教授から基調講演をいただき、引き続き福島県内で水環境の保全に向けた様々な取組を行う団体からの活動事例報告と、「豊かな水環境・生物多様性の保全のために」をテーマに、コーディネーターの塘准教授と3名のパネリストによるパネルディスカッションが行われます。

また、会場内では福島県内で水環境の保全に取り組む団体のポスターセッションを同時開催します。入場無料ですので奮ってお申し込み下さい。

申し込み等の詳細は以下のHP等で確認できます。

東北地方整備局HP：<http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/>

●「水環境を考えるシンポジウム」

豊かな自然と共生する社会を目指して

～水環境の保全と生物多様性～

日時 平成22年6月2日(水) 13時30分～17時00分 (開場13時50分)

場所 福島ビューホテル3F「吾妻」 (福島市太田町13-73)

●基調講演
テーマ「生きものの個性とつながりを意識した水環境の保全」
塘 忠顕 氏 福島大学准教授

●パネルディスカッション
◆活動事例報告
①古川を美しくする会(伊達市)
②津鯉川に清流を取り戻す市民の会(郡山市)
③ふるさとの川・荒川づくり協議会(福島市)
◆パネルディスカッション
テーマ「豊かな水環境・生物多様性の保全のために」
●コーディネーター 塘 忠顕 氏 福島大学准教授
●パネリスト 渡戸 孝則 氏 福島市長
青山 康行 氏 阿武隈川サミット実行委員会委員長
小森 晋 氏 東北地方整備局長

●ポスターセッション同時開催

お問合せ先 東北圏広域地方計画推進室 TEL.022-213-8067(直通)
東北地方環境事務所 TEL.022-722-2873(直通)

主催 東北圏広域地方計画協議会(東北地方整備局、東北地方環境事務所、福島県)、阿武隈川サミット実行委員会
共催 福島県報社(社)東北建設協会
後援 東日本日報社、新日本日報社、河北新報社、山形新報社、山形放送、福島民友新聞社、新潟日報社、
日刊建設工業新聞社東北支社、日刊建設産業新聞社東北支社、日刊建設通信新聞社東北支社、建設新聞社、
観光経済新聞社、NHK福島放送局、福島テレビ、テレビユー福島、福島中央テレビ、福島放送、
(財)東北環境研究センター、(財)東北産業活性化センター、東北観光推進機構

編集後記

ゴールデンウィーク皆様方は、旅行・遊びまたはゆっくり休まれリフレッシュできましたでしょうか。さて連休も終わり、東北圏広域地方計画も平成21年8月に決定され早1年近く経過し、広域連携プロジェクトのフォローアップの時期になっております。構成機関の皆様方には、いろいろとご依頼することが多くなるかと思いますが、ご協力をお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp